

1. 申請港概要

- 港湾管理者 山形県
- 担当部署 山形県県土整備部
港湾課
- 地元自治体 酒田市
- 酒田港は、山形県北西部、日本海に注ぐ最上川河口に位置する重要港湾で、国際・国内物流の拠点として発展。
北港地区には5万トン級岸壁を含む大型バースを整備し、韓国・中国との定期航路や国際ターミナルを備え、環日本海圏交流を推進。平成15年にリサイクルポートの指定を受け、循環資源の取り扱いや酒田臨海工業団地など後背地への静脈産業の集積に加え、再生可能エネルギーの導入など新たな機能も強化中。



国土地理院地図より

■ 位置図（港湾計画図）



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- 石炭灰リサイクル施設、自動車リサイクル施設、第3セクター方式による木くず・汚染土壌を扱う共同利用型保管施設などの多種多様なリサイクル関連企業が集積しており、「日本海側拠点港（リサイクル貨物）」として、広域的な循環資源ネットワークの形成に寄与して参りました。
- 循環資源取扱貨物量については、近年40万トンを超える取扱量を維持し、令和7年の取扱量はリサイクルポートとして指定された平成15年の約2.5倍となる49.2万トンに増加するとともに、地域ごとに少量・分散して発生する循環資源の集積・輸送機能も担うなど、リサイクルポートとしての役割を拡大しています。
- ☆ 後背地の酒田臨海工業団地には、リサイクル関連企業が進出しており、循環資源貨物の集積が進んでいます。また、風力・太陽光・バイオマス等の再生可能エネルギー発電施設の立地が進んでおり、これらの資源の有効活用や再生可能エネルギーの地産地消を通じて、サーキュラーエコノミーを実現し、地域における循環型社会の形成を図って参ります。

3. その他

